

授業科目の概要

博士後期課程

博士後期課程 科目一覧

受講場所	【○】 全ての講義が受講可能 【△】 一部の講義を受講 【無印】 受講不可
------	---

コード	科目名	講師所在	対面受講可能場所			遠隔 ZOOM
			本郷	浦安	三島	
0101	看護学研究論	浦安				○
0201	国際コミュニケーション	本郷/浦安	△	△		△
0103	看護と医学・スポーツ健康科学	浦安		○		
0104	リサーチ トピックス - D	-	-	-	-	-
0201	看護教育学特論	浦安				○
0202	看護管理システム特論	浦安	△	△		△
0203	感染制御看護学特論	浦安		△		△
0204	臨床病態看護支援特論	浦安/三島	△	△		○
0205	小児看護支援開発特論	浦安	△	△		△
0206	慢性看護支援開発特論	浦安		○		○
0207	高齢者看護支援開発特論	浦安				○
0208	ウィメンズヘルス看護支援開発特論	浦安		△		△
0209	地域看護システム特論	浦安		△		△
0210	メンタルヘルス看護支援開発特論	浦安		△		△
0211	在宅看護支援開発特論	浦安		△		△
0212	がん・クリティカルケア看護支援開発特論	浦安				○
0301	看護学演習	演習（指導教員に確認）				
0401	看護学特別研究	研究（指導教員に確認）				

※科目によって変更の場合があります。

科目コード	看護学研究論		
0101	Nursing Research Theory		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
共通科目/2単位	1年次/前期	必修	遠隔：ZOOM○
科目責任者	湯浅 美千代		
担当者	飯島佐知子、井上洋士、櫻井しのぶ、野崎真奈美、湯浅美千代		
先修要件			
キーワード	研究倫理 研究方法		
授業概要	<p>受講生各自がこれまでに行なった研究方法・研究プロセスを相互に分析・評価し合い、研究方法に関する理解を深める。また看護における研究方法の探求のために国内外の原著論文を精読し、未知な看護現象を明確化する研究方法の開発などに向け必要な課題について探求する。</p> <p>※それぞれの研究法を進めるうえで必要となる研究倫理、統計手法を含む</p>		
到達目標	<p>研究方法・研究プロセスをクリティーク（批判的に吟味）し、研究方法に関する探求ができる。国内外の原著論文を精読し、未知な看護現象を明確化する研究方法の開発などに向け必要な課題の探求ができる。</p>		
授業外学習	<p>事前に提示された課題について準備すること。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>		
テキスト参考文献	<p>1) Burns & Grove(2009):The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (6 th Ed), ELSEVIR SAUNDERS. 2) キャサリン・ポープ他著(2007):質的研究と量的研究のエビデンスの統合(伊藤景一、北素子監訳)医学書院。 3) 福井次矢編(2008):臨床研究マスターブック、医学書院。 4) Nicholas H. Steneck (2001):ORI 研究倫理入門—責任ある研究者になるために(山崎茂明訳)、丸善。</p>		
成績評価の方法・基準	<p>1. 研究方法・研究プロセスを批評し、研究方法に関する探求ができる。 2. 国内外の原著論文を精読し、未知な看護現象を明確化する研究方法の開発などに向け必要な課題の探求ができる。 これらについて、討議への参加20%、プレゼンテーション40%、レポート40%の内容をもとに、各担当教員が協議し決定する。</p>		
備考	<p>主体的な参加を期待する。 オフィスアワーを設けているので、事前にメールにてアポイントメントを取って、積極的にコンタクトを取ること。</p>		

授業の進め方	回	概要	本郷/浦安	三島
	1	オリエンテーション、エビデンスに基づく臨床実践と看護研究、研究倫理	湯浅	
	2	量的研究方法：その① デザイン・計画・測定・データ解析	井上	
	3	量的研究方法：論文のクリティーク①	井上	
	4	量的研究方法：論文のクリティーク②	井上	
	5	量的研究方法：その② 成果・介入研究・臨床試験登録とCONSORT声明	飯島	
	6	量的研究方法：量的論文のクリティーク①	飯島	
	7	量的研究方法：量的論文のクリティーク②	飯島	
	8	質的研究方法：その① 質的記述的研究	湯浅	
	9	質的研究方法：質的論文のクリティーク①	湯浅	
	10	質的研究方法：質的論文のクリティーク②	湯浅	
	11	質的研究方法：その② グランデッド・セオリー研究 (theory and Application)	櫻井	
	12	質的研究方法：グランデッドセオリー研究論文のクリティーク①	櫻井	
	13	質的研究方法：グランデッドセオリー研究論文のクリティーク②	櫻井	
	14	ミックス・メソッド・リサーチ	野崎	
	15	ミックス・メソッド・リサーチ論文のクリティーク	野崎	

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	国際コミュニケーション		
0102	International Communication		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
共通科目/2単位	1・2年次/後期	選択	本郷△ 浦安△ 遠隔：ZOOM△
科目責任者	櫻井 しのぶ		
担当者	櫻井しのぶ、浅野恵子		
先修要件	なし		
キーワード	Literature searching, Academic Research papers, Publication, Conference Presentation.		
授業概要	21世紀の看護学で活躍する人材にはグローバルなコミュニケーションツールとしての英語が堪能であることが要求される。本授業では医療や看護の分野で用いられる独特の英語表現法に関わる知識を修得することを目的とし、研究を行う上で必要不可欠なコミュニケーション能力を育成するプログラムである。医学や看護における英語論文の読解力を向上させ、英語による発表技術の向上を目指す。後半における内容はTOFELに関連した講義となっており、TOFELの得点の上昇を目標とすることで英語の総合能力が養われる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に関連する専門分野の国外の英語文献を収集し、文献レビューができる。 ・論文を英語で作成するための基礎となる英作文に必要な能力が修得できる。 ・国際学会等で英語にて研究成果を発表するために英語でのプレゼンテーションができる能力を修得できる。 		
授業外学習	本科目は提示された英語の文献を読み、自分自身でも適切な英語文献を探索することが求められる。また、文献レビューを行うので、研究に必要な文献レビューの方法については事前に修得しておくこと。更に、TOFELのしくみ、内容など概略を事前に学習しておくことが必要。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。		
テキスト 参考文献	テキスト ①Martin, P. S. (1997) Writing a useful literature review for a quantitative research project. Applied Nursing Research, 10, 159-162 ②Ryan-Wenger, N. M (1992) Guidelines for critique of a research report. Heart and Lung, 21, 394-401 その他教材は講義の中で指示する。		
成績評価の方法・基準	櫻井担当分 30% 浅野担当分 70%で評価を行い、櫻井が取りまとめ判定を行う。 評価の内訳 櫻井担当分：学習状況10%、レポート50%、プレゼンテーション40% 浅野担当分：学習状況10%、レポート50%、プレゼンテーション40%		
備考	一部、医学部の英語集中プログラムに参加することが条件になるので、日時未定。 要問合せ。		

回	概要	本郷/浦安	三島
1	1) 英語論文を読む(1回～5回) (櫻井) 看護や医学における英語論文を読み、最新の知見を英語で理解し、英語論文に慣れ親しみ、国際基準の英語論文とはどういうものなのかを理解し、その内容を学習する。 Introduction&how to review related literature	櫻井	
2	Reading nursing research article & discussion (focus on theory oriented)	櫻井	
3	Reading nursing research article & discussion (focus on research design)	櫻井	
4	Reading nursing research article & discussion (focus on utilization of nursing research)	櫻井	
5	Reading nursing research article & discussion (focus on nursing research trends)	櫻井	
6	2) リーディング&リスニング(6回～15回) 本授業では主にTOFELの内容を学ぶことで、総合的な英語力を育成することを目指し、特にリーディングとリスニングに重点をおいて、海外での学会発表などで必要とされるコミュニケーション力を養成する。 Introduction	浅野	
7	Reading strategy(1)	浅野	
8	Reading strategy(2)	浅野	
9	Listening Strategy(1)	浅野	
10	Listening Strategy(2)	浅野	
11	Additional skills for test taking(1)	浅野	
12	Additional skills for test taking(2)	浅野	
13	Additional skills for test taking(3)	浅野	
14	Model Test (1)	浅野	
15	Model Test (2)	浅野	

授業の進め方

※授業の進め方、受講場所等に変更となる場合があります。

科目コード	看護と医学・スポーツ健康科学		
0103	Sports Medicine and Health Science and Nursing		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
共通科目/2単位	1・2年次/通年	選択	浦安○
科目責任者	飯島 佐知子		
担当者	飯島佐知子、岡田隆夫、内藤久士		
先修要件			
キーワード	医学, スポーツ健康科学, 看護学		
授業概要	本講義では, 医学, スポーツ健康科学の一次予防, 二次予防, 三次予防の看護への適用の可能性について探求する。例えば, 従来の看護アセスメントに医学的検査や運動機能評価法を導入することや, 地域での疾病予防・健康増進やリハビリテーションへのスポーツ健康科学の応用などである。各自の研究テーマと医学, スポーツ健康科学に関連する原著論文について学習し, 看護学への適応や学際的研究のあり方を探求する。		
到達目標	1 従来の看護アセスメントに追加導入可能な、医学的検査や運動機能評価法を述べられる 2 地域での疾病予防・健康増進やリハビリテーションへのスポーツ健康科学の応用などについて具体例を挙げられる 3 看護と医学・スポーツ健康科学や工学等の新しい学際的研究に提案できる。		
授業外学習	1. 事前に授業テーマに関連した文献を収集し、理解を深めておくこと。 2. プレゼンテーションの資料を作成しておくこと。 3. 予習、講義を踏まえ、さらに文献を読み、レポートを作成する。 4. レポートには文献リストを添付すること。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。		
テキスト参考文献	Chuanyi N, Wuxian C. : Summaries of nursing care-related systematic reviews from the Cochrane library: exercise-based rehabilitation for coronary heart disease. J Cardiovasc Nurs. 2010;25(5):379-80. Fong DY, Ho JW, Hui BP, Lee AM, : Physical activity for cancer survivors: meta-analysis of randomised controlled trials. BMJ. 2012 Wong CX, Carson KV, Smith BJ. : Home care by outreach nursing for chronic obstructive pulmonary disease. Cochrane Database Syst Rev. 2012;4:CD000994. Richardson A, Medina J, Brown V, Sitzia J. : Patients' needs assessment in cancer care: a review of assessment tools. Support Care Cancer. 2007;15(10):1125-44.		
成績評価の方法・基準	医学系： それぞれの回のプレゼンテーション40%, 課題60%より評価する。(総合40%) スポーツ健康科学系： 授業場面の質疑応答30%, レポート40%, 筆記試験30%で評価する。(総合40%) 看護系： 課題発表50%とレポート50%(総合20%) 医学系・スポーツ健康科学系を飯島が取りまとめ総合的に判断する。		
備考	受講希望者は, まず飯島に連絡をとる。その後, 医学は岡田先生の指導により主としてお茶の水キャンパスで, スポーツ健康科学は, 内藤先生の指導によりさくらキャンパスで受講する。		

授業の進め方	回	概要	本郷/浦安	三島
	1	<看護系科目> ～看護と医学・スポーツ健康科学との繋がり～	飯島	
	2	<医学系科目> 2回目 生理学的研究と看護	岡田	
	3	サプリメントの効果とそのエビデンス	岡田	
	4	検体検査に影響を及ぼす因子	岡田	
	5	生活環境の測定と疾病	岡田	
	6	歩行能力の測定方法	岡田	
	7	ファンクショナルリーチなど運動療法の効果の測定方法	岡田	
	8	抗加齢(アンチエイジング)医学の理論	岡田	
	9	認知症の予防・診断・治療について	岡田	
	10	<スポーツ健康科学系科目> 日本人の体力・運動能力の現状と課題	内藤	
	11	健康づくりとエアロビクス	内藤	
	12	健康づくりとアネロビクス	内藤	
	13	アスリートの遺伝子に関する研究	内藤	
	14	基礎(動物)実験モデルによる研究成果のヒトへの外挿	内藤	
15	<まとめ> 医学, スポーツ健康科学を看護学への適用の可能性についてプレゼンテーションする	飯島		

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	リサーチ トピックス - D		
0104	Reserch Topics - D		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
共通科目/2単位/2単位	1～3年次/通年	選択	—
科目責任者	植木 純		
担当者	—		
先修要件	—		
キーワード	—		
授業概要	国内外の学会・研究会・大学等が主催する招請講演・教育講演・研修会および順天堂大学が主催する講演会・研修会等への参加により、医療看護研究に関連する最新の知見を深める。 対象となる講演会・研修会等および手続き等については下記詳細を参照。		
到達目標	—		
授業外学習	—		
テキスト 参考文献	—		
成績評価の方法・基準	15回の出席で2単位とする。 (1回 60～90分)		
備考	—		

【対象】

下記で研究科委員会の承認を得たもの

- ・国内外の学会・研究会・大学等の主催する招請講演・教育講演・研修会
(分野に関連するもの。発表の有無を問わない。)
- ・順天堂大学の主催するFDワークショップ, FD講演会, 国際交流講演会,
外国人講師による遠隔講義
- ・その他

【手続き】

- ①対象となる講演会・研修会等に参加後、出席表に必要事項を記入し、
研究指導教員の署名・捺印を得る。
(学会・研究会への参加の場合、参加を証明できる書類を添付)
- ②出席が15回に達したら、出席一覧表(最終レポート)に必要事項を記入、
研究指導教員の署名・捺印を得たものを、①とあわせて浦安キャンパス事務室に提出。

出席表および出席一覧表(最終レポート)の様式については別途案内する。

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	看護教育学特論		
0201	Nursing Education		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	遠隔：ZOOM○
科目責任者	野崎 真奈美		
担当者	野崎真奈美		
先修要件			
キーワード	看護学、教育学、関連学問、教授-学習、学習関連要因、教育理念、開発研究		
授業概要	教育学・教育心理学・教育工学等、看護学に関連する学問によって生みだされた知識の探究を積極的に行い、看護教育学に関する研究論文の批判的検討を通して、自らの研究課題の概念化、研究デザインの探究を行う。そして、看護の学問的発達に寄与することを目標に、看護学の新たな知識の創出を目指して展開される看護教育学研究への理解を深める。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育学に必要な教育学的知識について述べることができる。 ・自らの研究課題に関連する知識を広く探求することができる。 ・看護教育のアップデートなトピックを見出し、それについてのプレゼンテーションができる。 ・看護基礎教育に関する研究の発展性について述べることができる。 ・患者教育に関する研究の発展性について述べることができる。 ・看護継続教育に関する研究の発展性について述べることができる。 		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各回のフォーカスに沿って、文献レビュー等を行い、自分の意見をもって授業に臨む。 ・各回で討議した内容を基に、自分なりの意見をまとめる。 		
テキスト 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・Marilyn H. Oermann, Kathleen B. Gaberson :Evaluation and Testing in Nursing Education, Third edition, Springer Publishing Company, 2009 ・Judith A. Halstead, Betsy Frank :Pathways to a Nursing Education Career, Springer Publishing Company, 2011 		
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ①自己の研究課題に関する概念分析(主要概念、概念間の関連性)、文献検討(50%) ②上記に基づく研究計画書の作成あるいは新たに得た知識に関するレポート(50%) 		
備考			

授業の 進め方	回	概要	本郷/浦安	三島
	1	ガイダンス：看護教育学と研究課題	野崎	
	2	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：教育学的知識)	野崎	
	3	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：学習能力)	野崎	
	4	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：教育能力)	野崎	
	5	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：効果的な教授-学習方略)	野崎	
	6	討議：看護基礎教育に関する研究の発展性	野崎	
	7	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：患者教育)	野崎	
	8	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：組織における学習環境)	野崎	
	9	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：組織における看護教育者)	野崎	
	10	討議：患者教育に関する研究の発展性	野崎	
	11	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：看護継続教育)	野崎	
	12	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：教育評価尺度の開発)	野崎	
	13	研究論文の抄読とクリティーク(フォーカス：教育倫理、看護倫理)	野崎	
	14	討議：看護継続教育に関する研究の発展性	野崎	
	15	まとめ：関心課題の概念化と研究の方向性	野崎	

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	看護管理システム特論		
0202	Nursing management system Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	本郷△ 浦安△ 遠隔：ZOOM△
科目責任者	飯島 佐知子		
担当者	飯島佐知子、大西麻未		
先修要件			
キーワード	人的資源管理, 看護提供プロセス管理, 財務管理, 看護の質管理, 看護政策		
授業概要	<p>今日, 保健・医療・福祉政策の課題は, 限られた資源を効率的に用いてそれを必要とする人々に質の良い医療・看護を提供することである。本講義では, 医療・看護提供システムの今日的な研究課題について学際的に理解する。看護管理学の構成要素には, 組織における看護師の人員配置や継続教育やキャリア開発などの人的資源管理, 看護を提供するために必要な資源を確保するための財務管理, クリニカル・パスやアセスメント・シートなどを用いたエビデンスに基づく看護の提供プロセスの標準化, および, 患者・利用者に提供された看護の質や効率性について評価し, その結果に基づくアウトカム・マネジメントがある。これらの構成要素を統合して理解し, 施設や地域を包括する看護管理システムを創造するためのエビデンスを探求する。</p>		
到達目標	<p>各単元のテーマに関連し, エビデンスレベルの高い論文やユニークな研究方法の文献を収集しクリティークする。 論文の内容について, 研究方法論を踏まえたディスカッションをする。 最新の研究動向から効果がある看護行為にはどのようなものがあるかを概観し, 説明できる。 施設や地域を包括する看護管理システムを創造について考察できる。</p>		
授業外学習	<p>1. 各単元のテーマに関連する英文論文を収集する。 2. 英文を単に翻訳して意味を理解するだけでなく, 専門用語や分析方法については事前に可能限り調べて説明できるように, 追加資料等を用意しておく。 3. プレゼンテーションは文献に書かれている内容を100%聴衆に説明できるように また, 聴衆からの質問に回答できるように周到に準備してから発表に臨むこと。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>		
テキスト参考文献	<p>Gwen Sherwood, Jane Barnsteiner : Quality and Safety in Nursing: A Competency Approach to Improving Outcomes Wiley-Blackwell, 2012. Ada Sue Hinshaw, Patricia A Grady: Shaping Health Policy through Nursing Research. Springer Publishing Company, 2011 Kane, RL: Understanding Health Care Outcome Research, Second Edition, Jone and Brrett, 2006. F. Drummond, Mark J. Sculpher, George W. Torrance: Methods for the Economic Evaluation of Health Care ProgrammesM. Oxford University Press, 2000 Cyri F Chan, Sylvia A Price, Susan K, Pfoutz: Economics and Nursing :Critical Professional Issues. FA Davis Company. 2001 Patricia Kelly: Nursing Leadership & Management: International Edition, Delmar, Cengage Learning 2012,</p>		
成績評価の方法・基準	研究計画のプレゼンテーション40%, 発表用資料の充実度30%, 質疑応答30%で評価する。		
備考			

	回	概要	本郷/浦安	三島
授業の 進め方	1	ガイダンス：看護管理学のフレームワークと研究課題	飯島	
	2	人的資源管理：リーダーシップ, チームマネジメント	大西	
	3	人的資源管理：組織の変革理論, コンフリクト・マネジメント	大西	
	4	人的資源管理：効果的な人員配置とは	大西	
	5	看護の質管理：各国での看護の質評価, 臨床指標の実際	飯島	
	6	看護の質管理：米国のQuality and Safety Education(QSEN)の取り組み	飯島	
	7	看護の質管理：エビデンスに基づく患者安全	飯島	
	8	看護の質管理：アウトカム・マネジメント	飯島	
	9	看護と医療経済：看護師の労働市場, 看護サービスの市場	飯島	
	10	看護と医療経済：医療施設の原価計算 看護師・医療従事者の労働コストの計算方法	飯島	
	11	看護と医療経済：看護の費用効果分析・費用効用分析	飯島	
	12	看護と医療経済：看護の費用便益分析・費用最小化分析	飯島	
	13	看護と医療政策：医療政策に資する看護研究のモデルと戦略	飯島	
	14	看護と医療政策：医療政策に資する看護研究事例の検討	飯島	
	15	まとめ	飯島	

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	感染制御看護学特論		
0203	Infection Control Nursing Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	浦安△ 遠隔：ZOOM△
科目責任者	岩渕 和久		
担当者	岩渕和久、井上洋士、川上和美		
先修要件			
キーワード	感染メカニズム、宿主免疫、感染制御、医療安全		
授業概要	<p>「感染症に対抗する」ための科学的根拠に基づいた看護実践法について、学問領域を超えて多面的・総合的に探求するとともに、安全で質の高い医療の提供に繋がる感染予防・制御の方略を考案する。また感染制御の視点から医療関連感染における看護ケア実践の問題を追求し、エビデンスに基づいた実践法を考察する。一方で、地域・社会の感染症問題について考究し、感染免疫・感染制御の学識を基盤に看護実践法を論究する。さらに感染制御の視点から医療・教育の現場における指導者としての実践力の有り様について追求する。</p>		
到達目標	感染症に対抗するために必要となる知識と実践力を身につけるための基礎知識を身につける。		
授業外学習	<p>看護職者として感染症を制御するためにはどのようなことを実践すべきかについて、具体的に考案するための方策を行う。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>		
テキスト参考文献	<p>免疫-感染症と炎症性疾患における免疫応答(笹月健彦 監訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル)、日本環境感染学会誌、日本環境感染学会誌、公衆衛生学雑誌、民族衛生学会誌、感染防止のための看護技術-CDCガイドライン-</p>		
成績評価の方法・基準	研究計画のプレゼンテーション50%、文献検討50%		
備考			

授業の 進め方	回	概要	本郷/浦安	三島
	1	感染の特質と、感染予防・制御のための基礎理論の習得①	岩淵	
	2	感染の特質と、感染予防・制御のための基礎理論の習得②	岩淵	
	3	感染看護の実践に求められる理論の習得①	岩淵	
	4	感染看護の実践に求められる理論の習得②	岩淵	
	5	医療関連感染に関する研究の現状についての理解と体系化①	岩淵	
	6	医療関連感染に関する研究の現状についての理解と体系化②	井上	
	7	医療関連感染に関する研究の現状についての理解と体系化③	井上	
	8	地域における感染制御の研究の現状についての理解と体系化①	井上	
	9	地域における感染制御の研究の現状についての理解と体系化②	井上	
	10	地域における感染制御の研究の現状についての理解と体系化③	井上	
	11	地域における感染制御の研究の現状についての理解と体系化④	井上	
	12	感染症罹患者の生活の質向上にむけての研究・教育課題の検討	川上	
	13	感染症罹患者に対する倫理向上にむけての研究・教育の検討	川上	
	14	感染防止のための看護技術と実践についての研究・教育の検討	川上	
15	感染看護の実践力養成に向けた研究・教育法の検討	井上		

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	臨床病態看護支援特論		
0204	Clinical pathology nursing support Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	本郷△ 浦安△ 遠隔：ZOOM○
科目責任者	植木 純		
担当者	植木純、卜部貴夫、北村庸雄、戸叶隆司、佐野裕子、井上洋士、濱田千江子		
先修要件			
キーワード	病態、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、腎疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症、脳神経疾患、フィジカルアセスメント		
授業概要	代表的な急性疾患、慢性疾患及び慢性疾患の増悪期等の臨床病態学を学修する。臓器間ネットワークや全身性の炎症からみた新しい臨床病態の考え方、身体症状・所見の背景にある生理学的な変化、日常生活活動や健康関連QOL、社会参加に及ぼす影響、最新の治療介入手法や支援方法を学ぶ。さらに、疾患固有の臨床病態に関する最新の知見を基盤とした研究推進力を練成する。		
到達目標	代表的な急性疾患、慢性疾患及び慢性疾患の増悪期の病態を説明できる。 臓器間ネットワークや全身性の炎症からみた新しい臨床病態の考え方を述べることができる。 疾患固有の病態が日常生活活動や健康関連QOL、社会参加に及ぼす影響を述べるができる。 最新の薬物療法、非薬物療法を病態学的な視野から説明できる。 臨床病態の最新の知見を基盤として研究を推進することができる。		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関わる文献を読み、講義内でのディスカッションの準備をする。 ・関心のある特定領域について文献検討を行いレポートにまとめる。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。		
テキスト参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・症状の基礎からわかる病態生理第2版(Color Atlas of Pathophysiology, 2nd edition)、監訳：松尾 理(近畿大学名誉教授・近畿大学医学部顧問) 編集：Stefan Silbernagl・Florian Lang、メディカルサイエンスインターナショナル、東京、2011 ・Harrison's Principles of Internal Medicine, 20th Edition, Dan Longo, Anthony Fauci, Dennis Kasper, Stephen Hauser, J. Jameson, Joseph Loscalzo, McGraw-Hill Professional, 2018 ・看護技術がみえるvol.3 フィジカルアセスメント、メディックメディア社、東京 2015 		
成績評価の方法・基準	授業への参加20%、講義中のディスカッション20%、レポート40%の内容をもとに、各担当教員が協議し決定する。		
備考	自主的に参加することを期待する。 メール等で連絡を取って担当教員とコンタクトし、積極的にディスカッションを行い、ヘルスアセスメントを探求すること。		

授業の 進め方	回	概要	本郷/浦安	三島
	1	臓器間ネットワークと病態の考え方(1)	植木	
	2	臓器間ネットワークと病態の考え方(2)	植木	
	3	病態からみたICT導入の実際	植木	
	4	呼吸器疾患の病態と最新の治療介入法(1)	植木	
	5	呼吸器疾患の病態と最新の治療介入法(2)	植木	
	6	循環器疾患の病態と最新の治療介入法(1)	戸叶	
	7	循環器疾患の病態と最新の治療介入法(2)	戸叶	
	8	消化器疾患の病態と最新の治療介入法(1)	北村	
	9	消化器疾患の病態と最新の治療介入法(2)	北村	
	10	腎疾患の病態と最新の治療介入法(1)	濱田	
	11	腎疾患の病態と最新の治療介入法(2)	濱田	
	12	骨・関節系疾患の病態と最新の治療介入法	佐野	
	13	細菌感染症の病態と最新の治療介入法	植木	
	14	ウイルス感染症（HIV感染症/AIDS）の病態と最新の治療介入法	井上	
	15	脳神経疾患の病態と最新の治療介入法	卜部	

※授業の進め方、受講場所等に変更となる場合があります。

科目コード	小児看護支援開発特論		
0205	Family and Child nursing support development Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	本郷△ 浦安△ 遠隔：ZOOM△
科目責任者	伊藤 龍子		
担当者	伊藤龍子、西田みゆき		
先修要件			
キーワード	看護哲学 看護理論 心理学理論 社会学理論 療養支援看護 高度看護実践方法 高度研究方法論		
授業概要	<p>小児看護学に関連する諸理論と子ども観の歴史的変遷を概観し、長期的な療養を必要とする慢性疾患や障害を抱える子どもと家族の療養支援に関連する理論・概念・モデル、国内外の研究の動向を科学的に分析する。これら理論・概念・モデルの研究課題への適用について考察し、子どもと家族の療養支援のための看護実践方法の開発と検証のための主要な研究方法論を探究する。</p> <p>各課題について作成した資料を用いた発表と討議を中心に行い、必要に応じて解説する。</p>		
到達目標	<p>小児看護学に関連する理論・概念・モデルについて分析できる。 小児療養支援看護学に関連する研究論文をクリティークできる。 小児療養支援看護学の主要な理論と概念を分析できる。 小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究方法論について理解できる。 小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究手法について理解できる。</p>		
授業外学習	<p>別途配布するスケジュール表に即して、学習要項に提示した学習内容について購読文献リストおよび自ら検索した文献を基に学習し、プレゼンテーション資料を毎回作成して授業の2日前に担当教員に提出する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>		
テキスト参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・柳田國男：柳田國男全集23, こども風土記, p12-102, ちくま文庫, 1990. ・モーリス・メルロ・ポンティ著, 滝浦静雄, 木田元訳：眼と精神, 幼児の対人関係, みすず書房, 1966. ・Chinn PL, Kramer MK: Integrated Theory and Knowledge Development in Nursing, 8ed, ELSEVIER, 2011. ・Walker LO and Avant KC: Strategies for Theory Construction in Nursing, 5th, Prentice Hall, 2010. ・Rogers BL, Knafl KA: Concept Development in Nursing, Foundations, Techniques, and Applications, 2nd, W.B. Saunders Company, 2000. ・Manley K, McCormack B, Wilson V: International Practice Development in Nursing and Healthcare, Blackwell Publishing, 2008. ・Brink PJ, Wood MJ: Advanced Design in Nursing Research, 2nd, SAGE Publications, 1998. ・Nunnally JC.: Psychometric Theory, 2ed, McGraw-Hill Book Company, 1978. ・Locke LF, Spirduso WW, & Silverman SJ: Proposal That Work. A Guide for Planning Dissertations and Grant Proposals. 5th, SAGE Publications. 2007. 		
成績評価の方法・基準	<p>課題への取り組み30%、プレゼンテーション30%、プレゼンテーション資料10%、レポート1題20%、予備研究20%により総合して評価する。</p>		
備考			

	回	概要	本郷/浦安	三島
授業の 進め方	1	授業内容のオリエンテーションと課題の共有	伊藤/西田	
	2	小児看護学と子ども観の歴史の変遷	伊藤/西田	
	3	小児看護学に関連する理論・概念・モデルの分析Ⅰ	伊藤/西田	
	4	小児看護学に関連する理論・概念・モデルの分析Ⅱ	伊藤/西田	
	5	小児療養支援看護学に関連する研究論文のクリティークⅠ	伊藤/西田	
	6	小児療養支援看護学に関連する研究論文のクリティークⅡ	伊藤/西田	
	7	小児療養支援看護学に関連する研究論文のクリティークⅢ	伊藤/西田	
	8	小児療養支援看護学の主要な理論と概念の分析Ⅰ	伊藤/西田	
	9	小児療養支援看護学の主要な理論と概念の分析Ⅱ	伊藤/西田	
	10	小児療養支援看護学の主要な理論と概念の分析Ⅲ	伊藤/西田	
	11	小児療養支援看護学の看護実践方法の開発と看護提供システムⅠ	伊藤/西田	
	12	小児療養支援看護学の看護実践方法の開発と看護提供システムⅡ	伊藤/西田	
	13	小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究方法論Ⅰ	伊藤/西田	
	14	小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究方法論Ⅱ	伊藤/西田	
	15	小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究手法	伊藤/西田	

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	慢性看護支援開発特論		
0206	Chronic Illness and Conditions Nursing support development Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	浦安○ 遠隔：ZOOM○
科目責任者	高谷真由美・長瀬雅子		
担当者	高谷真由美、長瀬雅子		
先修要件			
キーワード	慢性病 理論/概念 文献検討 研究方法		
授業概要	成人の慢性病を持つ人々の看護に関する理論・概念・モデルの検討および研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索する。これらを通して自己の問題意識を明確にし、慢性病者の抱える複雑多様な問題状況の概念化および支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討し、患者・家族のQOLを高める援助方法を探求する。 各テーマについての発表とディスカッションを中心に行う。		
到達目標	各自が関心を持つ慢性病を持つ人々の看護に関する理論・概念・モデルの検討ができる。 各自が関心を持つ慢性病を持つ人々の看護に関する研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索できる。 慢性病者の抱える複雑多様な問題状況の概念化および支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討できる。		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に提示された課題に対して準備して参加すること。 ・分析で取り扱おうとする事象はどのようなことを考えておく。 ・研究を実施する上で必要となる研究協力施設・協力者への交渉を行う。 ・成果を関連学会への発表するための必要な準備を行う。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。		
テキスト参考文献	1) アーサー・クライマン著(1998):病いの語りー慢性の病いをめぐる臨床人類学、江口重幸他訳(2004)、誠信書房。 2) Pamela D Larsen. (2014):Chronic Illness :Impact and Interventions. (9th Ed). 3) 船津衛・宝月誠編(2006):シンボリック相互作用論の世界、恒星社厚生閣。 4) 黒江ゆり子他訳(2005) /Pirre Woog ed. :慢性疾患の病みの軌跡ーコービンとストラウスによる看護モデル/The chronic illness trajectory framework, The Cobin Strauss Nursing Model, 医学書院。 5) 南裕子監訳(2000)/A. L. Strauss and Juliet. Gorbun et. al :慢性疾患を生きる ケアとクオリティ・ライフの接点/Chronic Illness, 医学書院。 6) Walker & Avant(2005):Strategies for Theory Construction in Nursing. (4th Ed). 7) Fawcett(1993):Analysis and Evaluation of Nursing Theories.		
成績評価の方法・基準	1. 各自が関心を持つ慢性病を持つ人々の看護に関する理論・概念・モデルの検討ができる。 2. 各自が関心を持つ慢性病を持つ人々の看護に関する研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索できる。 3. 慢性病者の抱える複雑多様な問題状況の概念化および支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討できる。 これらについて、授業への参加態度20%、プレゼンテーション40%、レポート40%を基準に各担当者が協議して決定する。		
備考	主体的な参加を期待する。 オフィスアワーを設けているので、事前にメールにてアポイントメントを取って積極的にコンタクトをとること。		

	回	概要	本郷/浦安	三島
授業の進め方	1	授業内容のオリエンテーション	高谷・長瀬	
	2	慢性病を持つ人々の看護に関する理論・概念・モデルの分析	高谷	
	3	慢性病を持つ人々の看護に関する理論・概念・モデルの分析	高谷	
	4	慢性病を持つ人々の看護に関する理論・概念・モデルの分析	高谷	
	5	慢性病関連領域の研究論文のクリティーク	高谷	
	6	慢性病関連領域の研究論文のクリティーク	高谷	
	7	慢性病関連領域の研究論文のクリティーク	高谷	
	8	慢性病看護研究の動向と課題	高谷・長瀬	
	9	慢性病を持つ人々の質の高い生活に向けての支援モデルの開発	長瀬	
	10	慢性病を持つ人々の質の高い生活に向けての支援モデルの開発	長瀬	
	11	慢性病を持つ人々の質の高い生活に向けての支援モデルの開発	長瀬	
	12	慢性病を持つ人々の看護課題を探求する研究方法	長瀬	
	13	慢性病を持つ人々の看護課題を探求する研究方法	長瀬	
	14	慢性病を持つ人々の看護課題を探求する研究方法	長瀬	
	15	関心課題の概念化と研究の方向性	高谷・長瀬	

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	高齢者看護支援開発特論		
0207	Elderly nursing support development Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	遠隔：ZOOM○
科目責任者	湯浅 美千代		
担当者	湯浅美千代、島田広美、杉山智子		
先修要件			
キーワード	高齢者看護技術、高齢者ケア管理、高齢者と家族のセルフケア、高齢者への教育方法、認知症高齢者看護、高齢者のEnd of Life Care		
授業概要	<p>高齢者看護学・高齢者看護実践の発展に寄与できる研究を行う基盤をつくるために、高齢者看護学の6つの領域からテーマを定めて国内外の最新の研究論文を集め、クリティークし、論点を明確にして発表する。発表・討議を通してより深い考察を導く。</p> <p>ゼミナール形式で行う。</p> <p>領域①：高齢者への看護技術(アセスメント、コミュニケーション、環境調整を含む)、または管理技術(教育、システム整備・評価を含む)(湯浅)</p> <p>領域②：高齢者のセルフケアに関わる看護、または高齢者への教育方法(島田)</p> <p>領域③：認知症を有する高齢者の看護、または高齢者のEnd of Life Care(杉山)</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者への看護、または高齢者ケア管理に関する技術的側面について、基盤となる知見を収集し、論点・課題を明確に論述できる。 2. 高齢者のセルフケアに関わる看護、または高齢者への教育方法について、基盤となる知見を収集し、論点・課題を明確に論述できる。 3. 認知症を有する高齢者の看護、または高齢者のEnd of Life Careについて、基盤となる知見を収集し、論点・課題を明確に論述できる。 		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・領域①②③について、国内外の文献レビューを行い、プレゼンテーションのための資料を作成する。 ・授業内で提示された課題についてレポートを作成する。 <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>		
テキスト参考文献	<p>テキストは用いない。</p> <p>参考図書：</p> <p>Cress C.J. : Handbook of Geriatric Care Management, Forth Edition, Jones & Bartlett Learning, 2015.</p> <p>Resnick B. (editor) : Restorative Care Nursing for Older Adults: A Guide For All Care Settings, second edition, Springer Publishing Company, 2011.</p> <p>Czaja S.J., Sharit J. : Designing Training and Instructional Programs for Older Adults, CRC Press, 2012.</p> <p>Pace V., Treloar A., Scott S. : Dementia from advanced disease to bereavement, Oxford University Press, 2011.</p> <p>Hall S, Petkova H (editor) et al: Palliative Care for Older People: Better Practices, World Health Organization, 2011.</p> <p>その他、参考文献を授業内で紹介する。</p>		
成績評価の方法・基準	<p>プレゼンテーション資料(40%)と授業後のレポート(60%)により評価する。領域ごとの配点割合は、①40%、②30%、③30%である。</p> <p>評価視点: 文献に示された結果や知識を正しく理解し、様々な知識と照らし合わせて評価していること、高齢者看護領域の課題及び自身の提案や考察を、論理的に整理して他者にわかりやすく表現していること。</p>		
備考	<p>授業は原則として前期の土曜日に行うが、日時の詳細は学生と相談の上決定する。</p> <p>履修にあたっては、高齢者看護学の基礎的知識、実践経験が不可欠である。</p> <p>不明な点はあらかじめ相談し、発表・討議の準備を行うこと。</p>		

授業の 進め方	回	概要	本郷/浦安	三島
	1	領域①に関する講義「高齢者への看護技術と管理方法の発展」、テーマ選定	湯浅	
	2	領域①国内外文献についての発表・討議	湯浅	
	3	領域①国内外文献についての発表・討議	湯浅	
	4	領域①国内外文献についての発表・討議	湯浅	
	5	領域①国内外文献についての発表・討議	湯浅	
	6	領域①のまとめ	湯浅	
	7	領域②に関する講義「高齢者のセルフケアを支援する看護方法の開発」、テーマ選定	島田	
	8	領域②国内外文献についての発表・討議	島田	
	9	領域②国内外文献についての発表・討議	島田	
	10	領域②のまとめ	島田	
	11	領域③に関する講義「認知症を有する高齢者への援助プロセス（予防・診断から終末期まで）と援助方法の開発課題」、テーマ選定	杉山	
	12	領域③国内外文献についての発表・討議	杉山	
	13	領域③国内外文献についての発表・討議	杉山	
	14	領域③のまとめ	杉山	
15	高齢者看護領域における課題・改善案に関する討議	湯浅		

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	ウィメンズヘルス看護支援開発特論		
0208	Women's health nursing support development Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	浦安△ 遠隔：ZOOM△
科目責任者	大月 恵理子		
担当者	大月恵理子		
先修要件			
キーワード	Women's Health, Women's Health Nursing, Feminist Research, Gender, EBP		
授業概要	女性の生涯の健康(Women's Health)領域における研究方法論及び学術的な研究論文のクリティークし、Women's Health看護学における健康課題を多角的に捉え、看護援助方法を開発するための理論と概念を探究する。		
到達目標	①Women's Health、周産期看護領域に関連が深い理論の概要を説明できる。 ②Women's Health Research、周産期看護学研究に関連が深い、EBP、システムティック・レビュー、研究方法論の概要が説明できる。 ③Women's Health、周産期看護学領域における研究論文のクリティークが理解できる。 ④Women's Health、周産期看護領域における概念分析が理解できる。 ⑤Women's Health、周産期看護領域において、関心がある研究テーマの研究が立案できる。		
授業外学習	初講時に、毎回の概要と関連する事前課題を提示するので、15分程度でプレゼンテーションできるように、必ず準備をして講義に臨むこと。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。		
テキスト 参考文献	Random House Australia;THE WOMEN'S HEALTH BOOK,kindle book 2014,kindle ELLEN OLSHANSKY; Women's Health and Wellness Across the Lifespan,Wolters Kluwer, 2015 ウィメンズヘルスとウェルネス、ライフスパンの視点からのアプローチ、エレン・F・オルシャスキー 編集、高橋真理他監訳、ゆう書房、2017、2700円+税 NVIVO リファレンス、林真、工学社、2017、1800円+税 土屋雅子、テーマティック・アナリシス法、ナカニシヤ出版、2016年、2200円+税 その他文献は講義中に紹介する。		
成績評価の 方法・基準	プレゼンテーション50%、課題レポート50% 成績評価基準 ①Women's Health、周産期看護領域に関連が深い理論の概要を説明できるか。 ②Women's Health Research、周産期看護学研究に関連が深い、EBP、システムティック・レビュー、研究方法論の概要が説明できるか。 ③Women's Health 研究論文のクリティークが適切に実施できるか。 ④Women's Health領域における概念分析が説明できるか。 ⑤Women's Health領域において、関心がある研究テーマの研究が適切に立案できるか。		
備考	講義前に指定する課題を学習して講義に参加すること。オフィスアワーやインターネット指導を設けているので、事前予約をとって是非活用すること。		

	回	概要	本郷/浦安	三島
授業の 進め方	1	Women's Healthと関係理論①－ヘルスプロモーション	大月	
	2	Women's Healthと関係理論②－ジェンダー心理学	高橋	
	3	Women's Healthと関係理論③－フェミニスト理論	高橋	
	4	Women's Healthと関係理論④－母親役割獲得理論	大月	
	5	Women's Healthと関係理論⑤－家族看護論	大月	
	6	Women's Health Research①－Evidence Based practice	大月	
	7	Women's Health Research②－システマティックレビュー：Cochrane	大月	
	8	Women's Health Research③－システマティックレビュー：JBI	大月	
	9	Women's Health Research④－混合研究法①	古川	
	10	Women's Health Research⑤－混合研究法②	古川	
	11	Women's Health 研究論文のクリティーク①－量的研究 メタ分析	大月	
	12	Women's Health 研究論文のクリティーク②－質的研究 メタ統合	大月	
	13	Women's Health 研究論文のクリティーク③－理論構築	大月	
	14	Women's Health領域における概念分析－Women's Health・周産期看護領域	大月	
	15	Women's Health研究の実際－関心研究テーマの研究立案	大月	

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	地域看護システム特論		
0209	Community nursing system Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	浦安△ 遠隔：ZOOM△
科目責任者	櫻井 しのぶ		
担当者	櫻井しのぶ		
先修要件	なし		
キーワード	Community development, Health promotion. Health Care system. Social Capital		
授業概要	健康問題は国内外問わず、社会の在り方や環境の変化などにより大きく影響を受け、その内容は複雑多岐に渡る。そして、その解決方法も医学保健分野にとどまらず、様々な分野の複合的な視点を持ったものが求められる。ゆえに、現存もしくは潜在的に存在する健康問題とその関連要因について、より広域な視点、また集団（地域）に存在する個人および家族、特定集団、地域を対象とした深い洞察と分析方法を学び、支援方法の特質と理論的背景、看護の機能の社会的適用方法とケアシステム構築の方法について考察し、エビデンスに基づいた批判的思考のもとにより効果的な支援方法を探求する。		
到達目標	①地域の健康問題とその関連要因を追求し、個人および家族、集団、地域を対象とした支援方法の特質と理論的背景、看護の機能の社会的適用方法とケアシステム構築の方法について論述することができる。 ②地域看護学に関連する研究論文をクリティークできる。 ③地域看護における健康問題に関連する主要な理論・概念分析ができる。 ④地域看護の特性を使用した理論を使用した解決方法について述べることができ、ケアシステム構築について考察ができる。		
授業外学習	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。		
テキスト 参考文献	Naomi E. Ervin. (2002) Advanced Community health Nursing Practice, Prentice hall, Upper Saddle River, new Jersey. hall, Upper Saddle River, new Jersey. Lawrence W. Green, Marshall W. Kreuter. (2005). Health Program Planning; and educational and ecological approach. 4th edition, Macgraw Hill, New York		
成績評価の方法・基準	学習状況10%、プレゼンテーション40%、レポート50%で総合的に評価する。		
備考			

	回	概要	本郷/浦安	三島
授業の進め方	1	オリエンテーション 授業の進め方は、ゼミ形式を主とし、院生自身がプレゼンテーションした内容に基づいて検討していく。	櫻井	
	2	地域看護学における対象、特徴、看護活動の方法	櫻井	
	3	地域看護学における対象、特徴、看護活動の方法	櫻井	
	4	地域ケアシステムで用いる理論と基盤となる概念	櫻井	
	5	地域ケアシステムで用いる理論と基盤となる概念	櫻井	
	6	地域ケアシステムで用いる理論と基盤となる概念	櫻井	
	7	地域看護学の立場から追求すべき課題とその背景	櫻井	
	8	地域看護学の立場から追求すべき課題とその背景	櫻井	
	9	地域看護活動の展開過程	櫻井	
	10	地域看護活動の展開過程	櫻井	
	11	保健医療福祉を統合した支援方法・ケアシステムの構築を含めた支援方法	櫻井	
	12	保健医療福祉を統合した支援方法・ケアシステムの構築を含めた支援方法	櫻井	
	13	保健医療福祉を統合した支援方法・ケアシステムの構築を含めた支援方法	櫻井	
	14	保健医療福祉を統合した支援方法・ケアシステムの構築を含めた支援方法	櫻井	
	15	保健医療福祉を統合した支援方法・ケアシステムの構築を含めた支援方法	櫻井	

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	メンタルヘルス看護支援開発特論		
0210	Mental health nursing support development Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	浦安△ 遠隔：ZOOM△
科目責任者	上野 恭子		
担当者	上野恭子		
先修要件			
キーワード	精神看護、メンタルヘルス		
授業概要	精神の営みを多角的に捉え、様々な状況下にある対象者について、その特性を考慮したメンタルヘルスの維持、増進あるいは、疾患の予防に関する理論、看護モデル、研究、実践活動について概観する。さらに自己の関心ある現象を特定し、科学的思考で研究論文の批判的検討を行い、研究動向、主要概念の分析、研究方法論の検討、メンタルヘルスを改善または増進させるための支援方法の探究を行う。		
到達目標	看護学における研究のあり様を概観し、人びとの精神の健康に寄与しうる新たな知識の創出を目指し、メンタルヘルス看護学の学問的発展を導く能力を養うことを目的とする。 最初に看護学における科学について共通認識を行う 1. メンタルヘルスに関する国内外の動向を概観し、関心ある現象を特定できる。 2. メンタルヘルスの維持または向上を目指した援助方法を開発するための理論や主要概念、看護モデルの概要を説明できる。 3. 関心ある現象及び関連する現象に関して、国内外の研究論文を幅広く検索し、レビューする。 4. 自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について説明ができる。 5. 課題に関与する看護援助方法、およびその効果検証について探究でき、今後の展望や限界を明らかにできる。システマティックレビューが望ましい。		
授業外学習	*早い時期に「野矢茂樹(2006). 新版 論理トレーニング, 産業図書」を読み、各自、論理的な文章が書けるように練習をすること 1. テキスト1を自主的に読み、“看護学の知”について自分の考えを整理しておく。 2. 授業内容に沿って国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。 3. クリティーク内容は論文ごとにA41枚にまとめ、蓄積しておく。 4. 毎回のプレゼンテーションは、初学者として相応しい内容と態度となるように準備をする。 ※各授業につき予習90		
テキスト参考文献	1. Samir Okasha: Philosophy of Science, Oxford University Press, 2002. (廣瀬 覚訳: サミールオカーシャ 科学哲学, 岩波書店, 2008) 2. Peggy L. Chinn & Maeona K. Kramer: Integrated Theory and Knowledge Development in Nursing 8th. Ed., ELSEVIER, 2011. (川原由佳里監訳: チン&クレイマー 看護学の総合的な知の構築に向けて, エルゼビア・ジャパン, 2007) 3. Walker, L. & Avant, K. (2005). 中木高夫, 川崎修一訳(2008). 看護における理論構築の方法, 医学書院 3. 牧本清子(編集): Systematic Review, 日本看護協会出版会, 2013. 5. その他、随時紹介する		
成績評価の方法・基準	プレゼンテーションおよびディスカッション状況 (50 %) 自己の研究課題に関する文献レビュー内容 (50 %)		
備考	授業の内容は、各自の研究テーマに準じどのように進めるかを相談して決定する		

	回	概要	本郷/浦安	三島
授業の 進め方	1	ガイダンス テキスト1, 2について概要をプレゼンする 諸外国におけるメンタルヘルスの動向：政策やシステムを含む	上野	
	2	諸外国におけるメンタルヘルスの課題：各種データを準備	上野	
	3	日本のメンタルヘルスに関する動向：関連法規を含む	上野	
	4	日本のメンタルヘルスに関する課題：各種データを準備	上野	
	5	討議：メンタルヘルスに関連して関心ある現象に特化した研究の動向	上野	
	6	精神疾患患者の看護と援助方法	上野	
	7	1. 統合失調症患者への援助に関わる近年の研究の動向	上野	
	8	2. 気分障害患者への援助に関わる近年の研究の動向	上野	
	9	3. 神経症圏の患者への援助に関わる近年の研究の動向	上野	
	10	4. 身体疾患患者のメンタルヘルスに関する研究	上野	
	11	5. 災害／惨事時に引き起こされる精神障害に関連する研究	上野	
	12	討議：関心ある精神障害及び障害者に対する研究のレビュー（看護学領域および周辺領域の研究を対象とする）	上野	
	13	主要な看護援助方法、治療的介入に関する研究の動向	上野	
	14	1. 各種精神療法を用いた治療的介入と援助について	上野	
	15	2. 認知行動療法を用いた治療的介入と援助について	上野	
16	3. 薬物治療の心理教育と援助について	上野		
17	討議：研究課題関連の現象を構成する概念の導出と立言	上野		

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	在宅看護支援開発特論		
0211	Home nursing support development Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1・2年次/前期	選択	浦安△ 遠隔：ZOOM△
科目責任者	伊藤 隆子		
担当者	伊藤隆子		
先修要件	なし		
キーワード	在宅療養者 家族介護者 自立 QOL 訪問看護 在宅医療 在宅ケア 地域包括ケア 多職種連携 移行支援 ケアマネジメント		
授業概要	在宅看護学領域に関連する理論や概念、モデルを検討する。また下記①～⑥に関する国内外の学術的な研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索する。 ①在宅療養者とその家族の発達段階・ライフステージに合わせた看護実践 ②在宅療養者とその家族の自立・QOLを促進するための看護実践 ③訪問看護など在宅医療・在宅ケアにかかわる制度や現況 ④超高齢社会における地域包括ケアの充実に向けた課題とその解決策 ⑤在宅における関係機関や多職種との連携及びネットワークの構築 ⑥退院支援・調整等の療養の場の移行支援とケアマネジメント		
到達目標	1. 在宅看護にかかわる理論・概念・モデルを説明できる。 2. 在宅看護にかかわる研究論文をクリティークし研究の動向と課題を検討できる。 3. 在宅看護にかかわる研究方法論を探索できる。		
授業外学習	事前に提示された課題について、国内外の文献レビューを行い、プレゼンテーションのための資料を作成する。授業後協議内容をもとにレポートを作成する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。		
テキスト 参考文献	テキストは使用しない。随時参考文献を紹介する。 参考図書： Rudi Dallos: Family Belief Systems, Therapy and Change, Open University Press, 1991. Sheri Smith: Ethical Issues in Home Health Care, Charles C Thomas・Publisher, Ltd. 2008. Lorraine M. Wright, Janice M. Bell: Beliefs and Illness Model for Healing, 2009. Karen Holland, Christine Hogg: Cultural Awareness in Nursing and Health Care, Edward Arnold Ltd. 2010. Marilyn A Ray: Transcultural Caring Dynamics in Nursing and Health Care, F. A. Davis Company. 2010 筒井孝子：地域包括ケアシステムのためのマネジメント戦略、中央法規出版株式会社、2014.		
成績評価の方法・基準	プレゼンテーション資料60%、授業後のレポート40%により評価する。		
備考			

	回	概要	本郷/浦安	三島
授業の 進め方	1	オリエンテーション	伊藤隆子	
	2	①に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	3	①に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	4	②に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	5	②に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	6	③に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	7	③に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	8	①～③のまとめ（関連する理論、概念、モデルの確認）	伊藤隆子	
	9	④に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	10	④に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	11	⑤に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	12	⑤に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	13	⑥に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	14	⑥に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	伊藤隆子	
	15	④～⑥のまとめ（関連する理論、概念、モデルの確認）	伊藤隆子	

※授業の進め方、受講場所等に変更となる場合があります。

科目コード	がん・クリティカルケア看護支援開発特論		
0212	Oncology and Critical care nursing support development Advanced Course		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
専門科目/2単位	1,2年次/前期	選択	遠隔：ZOOM○
科目責任者	佐藤 まゆみ		
担当者	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子		
先修要件	特になし		
キーワード	がん看護、クリティカルケア看護、理論、概念、看護支援モデル、研究方法		
授業概要	<p>がん看護学・クリティカルケア看護学に関連する理論・概念の分析、看護支援モデルの分析、研究方法論の検討、及び、自らの研究課題に関連する研究論文のクリティークをとおして、自己の研究課題を多角的視点から捉えるとともに、新たな知識の創出や看護援助方法の開発のための研究手法を探究する。</p> <p><授業の進め方>本授業は、ゼミナール形式で行う。学修テーマについてのプレゼンテーションと参加者全員でのディスカッションにより学びを深める。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護学・クリティカルケア看護学に関連する主要な理論・概念・看護支援モデルについて説明できる。 2. がん看護学研究・クリティカルケア看護学研究における研究方法論について説明できる。 3. 自らの研究課題に関連した研究論文のクリティークができる。 4. 自らの研究課題を概念化し、新たな知識の創出や看護援助方法の開発のための研究手法について検討できる。 		
授業外学習	<p>[予習（事前準備）] プレゼンテーション資料を作成する。</p> <p>[復習] 各授業内容について理解を深める。</p> <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>		
テキスト 参考文献	テキストは用いない。		
成績評価の方法・基準	<p>プレゼンテーション資料・プレゼンテーション40%、授業への参加状況30%、レポート30%を総合して評価する。</p> <p><レポート課題> 自らの研究課題の概念化の結果及び研究手法の検討プロセスをまとめる。</p>		
備考			

授業の 進め方	回	概要	本郷/浦安	三島
	1	オリエンテーション	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	2	がん看護学・クリティカルケア看護学に関連する理論・概念（１）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	3	がん看護学・クリティカルケア看護学に関連する理論・概念（２）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	4	がん看護学・クリティカルケア看護学に関連する理論・概念（３）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	5	がん看護学・クリティカルケア看護学における看護支援モデル（１）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	6	がん看護学・クリティカルケア看護学における看護支援モデル（２）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	7	がん看護学・クリティカルケア看護学における看護支援モデル（３）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	8	がん看護学研究・クリティカルケア看護学研究における研究方法論（１）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	9	がん看護学研究・クリティカルケア看護学研究における研究方法論（２）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	10	がん看護学研究・クリティカルケア看護学研究における研究方法論（３）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	11	自らの研究課題に関連する研究論文クリティーク（１）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	12	自らの研究課題に関連する研究論文クリティーク（２）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	13	自らの研究課題に関連する研究論文クリティーク（３）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
	14	自らの研究課題に関連する研究論文クリティーク（４）	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子	
15	自らの研究課題の概念化と研究手法の検討	佐藤まゆみ 池田恵 高山京子		

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	看護学演習		
0301	Nursing Seminar		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
演習・研究/2単位	1年次/後期	選択	—
科目責任者	植木 純		
担当者	<p>【浦安キャンパス】 飯島佐知子、伊藤龍子、伊藤隆子、井上洋士、岩渕和久、植木純、上野恭子、大月恵理子、櫻井しのぶ、佐藤まゆみ、野崎真奈美、湯浅美千代、大西麻未、島田広美、杉山智子、高谷真由美、長瀬雅子、永野光子</p> <p>【三島キャンパス】 西田みゆき、濱田千江子</p>		
先修要件			
キーワード			
授業概要	<p>国内外の文献を検討材料とし、より専門性を深めるとともに、各自の関心領域における課題解決が必要とされるテーマを検討する。さらに課題解決に必要なとされる理論と方法論、技法について実証的に探究する手法を修得する。</p> <p>各担当教員と相談し、選んだ分野に関して以下の内容について演習を行う(15回)。</p> <p>1～4回目 選んだ分野で課題解決をする必要があると考える研究論文のシステムティックレビューと課題解決を必要とするテーマを選定する。</p> <p>5～8回目 課題解決を必要とするテーマに関する研究デザインの検討をする。</p> <p>9～13回目 課題解決を必要とするテーマについてデータ収集と分析の実施をする。</p> <p>14～15回目 課題解決に必要なとされる理論、方法論、技法について実証的に探究する方法を検討し、各自の研究課題の究明に活用、発展させる。</p>		
到達目標	各自が関心領域の研究論文レビューや概念分析などから研究課題を絞り込み、研究課題達成に必要な研究方法を検討し、研究計画を作成できる。		
授業外学習	各担当者より適宜紹介する。		
テキスト参考文献	各担当者より適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準	テーマの決定20%、デザインの検討30%、データ収集と分析の実施10%、プレゼンテーション20%、課題レポート20%		
備考	自ら進んで学ぶ姿勢を望む。 オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡を取って、積極的にコンタクトをとること。		

【浦安キャンパス】

・飯島 佐知子

組織における質の高い看護サービスの提供や顧客満足の上昇に必要な看護提供プロセスの標準化や人材育成システムに必要な情報の収集、アセスメント、計画立案、評価する能力をフィールドワーク等により育成する。組織の特性を踏まえた看護管理システムの構築のために、安全管理、看護管理、病院管理に関する文献を国際的学際的に収集し、批判的に吟味し、看護管理のあるべき姿について探求する。

・伊藤 龍子

小児看護学領域の専門的特性を踏まえ、系統的文献レビュー及び関連施設等のフィールドワークを通して、子どもと家族の長期的な療養生活における高度な看護実践能力、自己の研究課題を導く方法論について科学的に探究する。

・伊藤 隆子

在宅看護学領域における自己の研究課題を明確にするために、国内外の学術的な研究論文をクリティークし最新の研究の動向と課題と研究方法を探索することで博士研究の基盤を作る。

・井上 洋士

感染症罹患患者への看護・支援および感染症予防策での課題解決のため、看護や臨床系のみならず社会系や基礎系の文献も収集・検討し、平行してソーシャルマーケティング、当事者参加型研究、質的研究と量的研究の組み合わせ手法などの方法論について学ぶ。またフィールドワークを行うことで、実践に役立つ研究手法のスキルを修得する。

・岩淵 和久

「感染症に対抗する」ための科学的根拠を実証するために必要となる学問領域を超えた実験手法や解析手法について学修し、エビデンスに基づく感染予防・感染制御の看護実践を支援するための研究を展開するための手法を修得する。

・植木 純

講義や演習、セミナーや学会への参加、代表的な文献のレビューを基盤に急性疾患、慢性疾患及び慢性疾患の増悪期の病態学を学修し、エビデンスに基づいた実践能力、研究課題へと発展させる手法を修得する。

・上野 恭子

人々の生活の質の向上に寄与するためにメンタルヘルスに関連した研究課題を特定し、主にシステムティックレビューや学際的な学問領域から研究論文を選び、研究の動向を明らかにする。その結果を踏まえ、指導教員とディスカッションを通じて自らの課題に適した具体的な研究デザインを探究し、研究計画に必要な能力を修得する。

・大月 恵理子

母性看護学、助産学領域の専門的特性を踏まえ、系統的文献レビューを基盤として自己の研究課題を明確化し、女性とその家族の健康課題に対する看護実践を支援するための研究計画に必要な能力を修得する。

・櫻井 しのぶ

地域における産業、学校、地域等における潜在・顕在する健康課題と関連する地域看護支援の方法について、社会経済的要因や疫学的視点などを包括した地域看護の専門的理論・知識に基づいて検討し、地域看護実践における自己の研究課題を明確にし、信頼妥当性の高い研究計画へと発展させる

・佐藤 まゆみ

がん看護学またはクリティカルケア看護学の実践・教育・研究の発展に貢献しうる研究課題に対し、研究デザインの検討や小規模予備調査等をとおして研究計画を立案・洗練するまでプロセスを指導する。

・野崎 真奈美

看護教育学研究に関する国内外の文献検討および教育現場でのフィールドワーク等を通して看護学教育における課題を明確化する。または、小規模な予備調査を行い、テーマにあった研究方法論の選択につなげる。

・湯浅 美千代

①高齢者に関わる特定のテーマの看護実践事例を分析し、そのテーマに関する援助課題を明らかにする。②高齢者看護領域における研究を実施する上での倫理的課題・方法論的課題について、国内外の文献、ヒアリング、小規模調査等を通して明らかにする。③高齢者看護領域において看護・管理・教育実践を展開する上での課題について国内外の文献、ヒアリング、小規模調査等を通して明らかにする。

・大西 麻未

医療・看護の質向上に寄与する管理的視点の研究課題を特定し、国内外の文献検討、討議に基づいて探究方法を検討し、研究計画を立案・洗練させる。

・島田 広美

回復期にある高齢者と家族に関するテーマに沿って、文献検討を行い研究課題を明確にし、研究計画を念頭においたフィールドワーク、及び討議を通して、研究課題及び研究方法を洗練する。

・杉山 智子

高齢者看護学に関連した様々なテーマについて、国内外の文献や実践事例の検討を行うことで課題を明確にする。またフィールドワークを行うことで臨床現場における課題を明確にし、探求するための方法について検討する。

・高谷 真由美

慢性病看護分野において必要なケースマネジメント力を高めるために、慢性病看護のケアモデルに含まれる概念を明確にしなが実践事例や文献事例の検討を行い、アウトカムの達成要件を抽出する。さらに抽出された達成要件を実践するため方略の具体化を検討する。

・長瀬 雅子

慢性的な病／状態を抱え、長期的ケアを受けながら死を迎えるまでの支援システムに重要な概念について、国内外の看護学及び周辺領域の文献抄読やフィールドワークの分析を通して研究課題を明確にする。

・永野 光子

1. 看護教育学研究に関する国内外の文献検討を通し、看護教育学研究の動向を明らかにする。
2. 自己のこれまでの看護実践、教育実践を看護理論や測定用具を用いて客観的に分析・評価し、その結果を実践に活用する。

【三島キャンパス】

・西田 みゆき

子どもとその家族がもつ健康問題とその影響要因を多角的に捉え、生活の質の向上のための看護実践力と研究能力の基盤となる知識を構築する。そのために幅広い文献レビューを行い、フィールド演習(予備研究)を進め、研究課題を明確にする。

・濱田 千江子

フレイル(運動器機能の低下)の発症・進展予防への看護介入の重要性を理解するため、セルフヘルスケアマネジメントあるいは慢性疾患で発生するフレイルの文献レビューを行い、フィールドワークのデータ分析を通して、研究課題を明確にする。

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

科目コード	看護学特別研究		
0401	Nursing Special Research		
科目区分/単位数	履修年次	必修・選択	受講場所
演習・研究/10単位	1～3年次/通年	選択	—
科目責任者	植木 純		
担当者	<p>【浦安キャンパス】 飯島佐知子、伊藤龍子、伊藤隆子、井上洋士、岩渕和久、植木純、上野恭子、大月恵理子、櫻井しのぶ、佐藤まゆみ、高橋眞理、野崎真奈美、湯浅美千代、島田広美、杉山智子、高谷真由美、長瀬雅子</p> <p>【三島キャンパス】 西田みゆき、濱田千江子</p>		
先修要件			
キーワード			
授業概要	<p>各専門分野の講義・演習を踏まえ各専門分野教員の指導の基に、専門性を高めた研究計画を立案し、研究活動を展開して、博士論文の作成を指導する。 各専門分野教員の研究指導教員及び研究指導補助教員の指導の基に、下記に示す段階を目指し研究活動を展開する。(75回)</p> <p>1年次 1～15回目 先行研究を検討しながら、研究課題と研究方法を明らかにする。 研究計画書の作成を行う。</p> <p>2年次 16～20回目 研究計画審査と研究倫理審査を受け、研究を実施出来るよう準備を整える。研究経過の報告を行う。 21～45回目 研究計画に即してデータ収集と分析を行う。その結果を踏まえて関連する文献を用いて考察する。</p> <p>3年次 46～70回目 論文を作成し学会発表及び学術誌に投稿する。 71～75回目 学術誌への掲載受理を条件に、研究の最終的な取りまとめを行い、学位論文の審査を受ける。</p>		
到達目標	<p>1. 専門看護領域の発展や専門知識・技術の向上・開発を図るために、科学的思考・論理的思考に基づき独創的な研究活動を行うことができる。 2. 研究を推進するに当たり、研究者に必要な研究倫理の公理に基づいて実施できる。 各担当者より適宜紹介する。</p>		
授業外学習	各担当者より適宜紹介する。		
テキスト 参考文献	各担当者より適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準	研究計画書20%、プレゼンテーションの内容10%、データ収集と分析・論文内容70%		
備考	各担当教員がオフィスアワーを設けているので、メール等で連絡を取って、積極的にコンタクトを取ること。		

論文指導教員名と指導の概要

【浦安キャンパス】

・飯島 佐知子

看護管理学に関わるテーマのうち、人員配置、医療・看護の質の評価、医療安全、財務管理、医療・看護の原価計算、医療経済的評価、バランススコアカードなどのテーマを扱う。研究方法は、アセスメントスコアシートなど、評価尺度の開発、介入前後比較研究、無作為化比較試験、費用効果分析、費用最小化分析などの先進的な量的方法の研究指導を行う。

・伊藤 龍子

子どもと家族の長期的な療養生活のための看護支援開発に関する研究テーマの選択、研究デザイン及びサブストラクションの設計を通じた精度の高い研究方法論の選択を行い、論文作成の研究指導を行う。

・伊藤 隆子

在宅看護学領域に関わる専門的な看護を追求するための研究課題、例えば療養者とその家族に対して提供される看護実践、在宅における関係機関や多職種との連携及びネットワークの構築、退院支援・調整等の療養の場の移行支援とケアマネジメントなど、各自明確にし、研究計画立案、実施、博士論文作成の指導を行う。

・井上 洋士

感染症罹患患者への看護・支援の質向上や、感染症予防への効果的な対策に寄与する研究課題を定め、研究方法を念入りに検討しつつ現実的かつ批判に耐えうる水準の研究計画を立案し、倫理的配慮を十分にしながら、実査を行い、データ分析、論文作成、発表をするまでの一連の研究遂行ができるよう、指導を行う。

・岩渕 和久

感染症に対抗するための感染免疫の科学的根拠を実証する研究手法を教授する。さらに博士論文を作成する過程を通して、感染症を予防・制御する方法や活動支援に関する研究を立案・実施・解析・論文作成ができるように指導する。

・植木 純

健康課題の根底にある臨床病態のアセスメント手法に関して文献等より国際的な標準手法を修得、先端的な手法も同時に探求する。健康課題の解決をめざした科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証法を立案、必要に応じて欧米やアジア等の研究者と連携し研究を展開する能力や論文作成能力を修得し、研究者としての視野や力量が身につくよう指導する（佐野裕子准教授が共同で指導する）。

・上野 恭子

狭義の精神看護やリエゾン精神看護領域から研究テーマを特定し、看護支援開発に寄与する研究を目指す。関連および周辺領域の研究論文や文献を幅広くレビューし、研究目的に適したデザインや手法を検討して科学的論文を作成する。一連の過程を通して倫理観を備えた研究者として成長するよう指導する。

・大月 恵理子

母性看護学・助産学領域の看護実践・教育・研究の発展に貢献する科学的根拠を提供する研究遂行を目指し、研究計画立案から実施、分析、論文作成に至るまでの支援を行う。

・櫻井 しのぶ

国内外の学校保健現場や学童期・思春期の様々な健康問題を実践的に解決しうる研究成果を目指し、影響する諸要因を検討、独自性の有るグローバルな視点を持った研究課題を選定し、質的帰納的研究方法（グランデッドセオリー）の活用を積極的に取り入れた質量混合研究法のもと、データ収集・解析、フィールドワークなどを行い、博士論文作成の指導を行う。

・佐藤 まゆみ

がん看護学またはクリティカルケア看護学の実践・教育・研究の発展に貢献しうる各自の研究課題について、研究計画に基づき研究を実施し、博士論文としてまとめる一連のプロセスを指導する。

・高橋 眞理

Women's Health看護学領域における自らが選んだ研究課題について、研究計画書の立案、研究実施、博士論文作成のための指導を行う。主な指導研究テーマ例は、女性の健康課題と看護介入に関する研究、妊娠・出産・育児の心理的な研究、女性の情動変化と自律神経機能などである。

・野崎 真奈美

看護教育における課題の解決に貢献できるよう、教育方法、教育評価方法、授業設計、教材開発、教育プログラム開発、教師教育、キャリアデザイン支援等の提案につながるテーマについて探求する。研究テーマに応じた研究デザインを設計し、関連分野の学際的な活動への参加を通して研究活動を洗練させ、博士論文を完成させるよう指導する。

・湯浅 美千代

高齢者に関わる専門的な看護をより深化・発展させる可能性をもつ新規性のある研究テーマを選定し、目的に応じた適切なデータ収集・分析方法を検討し、工夫するとともに、高齢者看護領域の研究では課題の多い倫理的な問題への配慮及び結果の妥当性確保のための手続きを行い、博士論文の作成を指導する。

・島田 広美

回復期にある高齢者と家族に関する援助課題について、文献検討、関連する概念の検討を行い、研究課題に即した研究方法を選択し、研究計画書を作成する。研究計画書に即してデータ収集と分析、結果をとりまとめ、博士論文作成を指導する。

・杉山 智子

高齢者看護の中でも特に認知症高齢者のケアに関する研究について、国内外の文献のレビューを行い、臨床看護においてニーズの高い研究課題を探求する。その上で研究方法の検討、研究計画書の作成、データ収集、分析を通して、高齢者看護学の研究を行うための能力を養えるよう博士論文指導を行う。

・高谷 真由美

慢性疾患患者の看護に関する自らの問題意識を、文献検討や演習を通して研究テーマとして明確化し、セルフマネジメント支援におけるプロセス、アウトカム、プロジェクト評価の手法を研究し、論文作成ができるように指導する。

・長瀬 雅子

慢性的な病/状態を抱え、長期的ケアを受けながら死を迎えるまでの支援システムの構築あるいは改善のために、患者が抱える療養上の困難を身体的、精神的、社会的側面から捉え、療養システム、価値/信念システムに関する研究課題について論文作成指導を行う。

【三島キャンパス】

・西田 みゆき

先天性疾患や健康障害を持つ子どもとその家族の健康や生活の質を改善するための看護の課題について、国内外の現状を把握し、小児看護領域において知識の構築に寄与する研究課題を選定し、研究指導を行う。

・濱田 千江子

セルフヘルスマネジメントあるいはフレイル（運動器機能の低下）の文献レビューや先行研究をもとに、明確となった課題における仮説を証明するための研究計画を作成し、データ収集に必要なフィールドの設定ならびにデータ収集と解析とを行い、最終的に研究課題の論文作成を行う。これら一連の課題研究に対して、実施に必要なサポートならびに指導する。

※授業の進め方、受講場所等は変更となる場合があります。

(裏面)